06 日本三大祭り「祇園祭」の“ごみゼロ”大作戦

大谷大学 全学部共通科目（人間学）

Challange

直面している社会課題

お祭りのポイ捨てゴミは、誰が回収する？

京都の夏の風物詩「祇園祭」。日本三大祭りのひとつであり、1000年以上続く世界有数の伝統祭事としてユネスコ無形文化遺産に登録されています。豪華絢爛に装飾された山鉾が京都の街中をゆっくりと進む「山鉾巡行」が有名です。山鉾巡行の前夜は、「宵山」と呼ばれ、町中に多くの屋台が立ち並びます。宵山には、提灯が灯った山鉾と夜店を楽しみに多くの観光客でにぎわいます。しかし、年々増えているのは、観光客だけではありません。食べ歩きによるポイ捨てゴミなど屋台によるゴミ問題が課題です。宵山が終わり屋台が撤収すると、路上には大量の投棄ゴミが山積みになっていました。

解決のための取り組み

地域の課題は、みんなの課題「ごみゼロ大作戦」始動！

行政や市民活動団体、屋台の出店主、ごみ収集事業者などが協力して「祇園祭ごみゼロ大作戦」を2014年に始動。当日は、学生などのボランティアが2000名ほど活動しています。大谷大学からは学部の専攻を問わず、毎年150名ほどが活動に参加。ボランティアリーダーを担うなど”ごみゼロ”に取り組んでいます。

#知っておきたいキーワード

#祭りでのゴミ問題

祭りでは屋台の容器や使い捨て食器などで大量のゴミが発生し、ゴミ箱不足によるポイ捨ても多発。翌日の清掃が住民や自治体の負担となっています。分別がされていないとリサイクルも難しくなってしまいます。

わたしたちの活動

CHECK 1

ごみの拾い歩き回収

会場を巡回し、散乱ゴミを回収します。ゴミが放置されていると次々にポイ捨てゴミが増えて行ってしまうため、できるだけ道がきれいな状態が保たれるように活動します。

CHECK 2

エコステーションの運営

町内各所に設置された「エコステーション」がゴミ回収の拠点です。再利用可能なリユース食器の回収やごみの分別を呼びかけています。屋台ではリユース食器を使ってもらい、ゴミ削減に取り組んでいます。2025大阪関西万博でも導入された「未来社会のデザイン」のアクションのひとつです。

こんな未来を目指しています

環境とお祭りを両立させる”3R”リデュース、リユース、リサイクル

以前は地域住民が山鉾巡行当日の早朝に清掃活動を行っていましたが「ごみゼロ大作戦」の開始によりその負担は大幅に軽減されました。祇園祭に関わるすべての人が協力するこの活動は、「環境問題の解決には市民一人ひとりの意識と行動が必要である」という考えに基づいています。近年は外国人観光客も増える中、活動の重要性はさらに増しています。大谷大学の学生も参加する「ごみゼロ大作戦」は、本学の地域連携や社会貢献を代表する取り組みです。授業では、当日の活動に加え、事前事後の学習や国内外のの事例研究を通じて、環境負荷の軽減と豊かな暮らしの両立を目指す生活様式について学んでいます。

投票先からメッセージ

ごみゼロの活動は、環境問題を教室で学ぶだけでは感じることができない、問題解決のためにチームで行動する実感とやりがいがあります。山鉾を出す町内の住民さんや観光客から「ありがとう」「がんばって」という励ましの言葉がもらい、活動の意義も感じています。また、社会人や他大学の学生とチームを組み、多様なつながりを得る機会にもなっています。
環境に配慮した行動を心がけるようになったことは言うまでもありません。みなさんからの応援投票も我々の力になります！

担当教員：大谷大学 教授 赤澤 清孝
（社会学部コミュニティデザイン学科）